

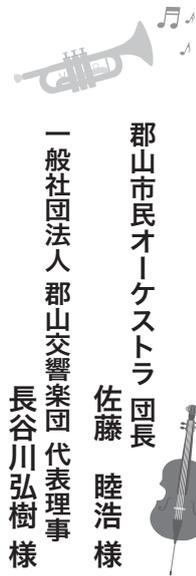


公益社団法人郡山青年会議所 2024年度スローガン

Do one's best!

～心を尽くして行動しよう！
私たちの想いが新世紀 郡山の扉を開く～

織田 綾平理事長（以下、織田）本日はお忙しいなかお越しいただきまして誠にありがとうございます。今年には郡山市制施行一〇〇周年を迎えますが、地元郡山に少しでも恩返しをしたいという想いがあります。私自身が音楽を専門としてきたこともあり、今年には音楽を一つの柱に青年会議所運動を実施していく所存でございます。そこで『楽都郡山のこれからと、地域に根差したオーケストラの果たす役割』というテーマで今回の対談を実施させていただきました運びとなりました。



特別対談

郡山市民オーケストラ 団長 佐藤 睦浩様
一般社団法人郡山交響楽団 代表理事 長谷川 弘樹様

まずは佐藤様にお話を伺います。郡山市民オーケストラ誕生の背景と、地域におけるこれまでの取り組みについて、どのようなことを考え行ってきたのかお聞かせ願います。

郡山市民オーケストラ団長佐藤睦浩氏（以下、佐藤）
二つの弦楽グループ「郡山市民合奏団」と「郡山市民交響楽団」が最終的に合併して創設したことが起源となっています。多くの関係者様にご尽力いただき後援会組織を設立し、サポート企業を集めて一九七一年三月九日に郡山市民オーケストラが誕生しました。

地域における取り組みについては、当団体は年に二回の演奏会を開催しています。定期演奏会が年一回、そして隔年でファミリーコンサートを開催しています。ファミリーコンサートは一九八七年から続いています。誰でも聴けるコンサートをコンセプトに、企画もののコンサートを開催したり、他のオーケストラのメンバーを招待したりしています。当団体の規約としてオーケストラを通じて音楽を研究し、地域の音楽文化の向上を謳っています。誰でも入団できるような地域に根差した音楽を届けることが一番大きな目的になります。これは私自身の想いですが、地域の人々にオーケストラを発信してファンを増やしたいと考えています。小中学生の講習会に団員が講師として参加したり、定期演奏会で地元出身のプロの音楽家と共演したり、地元の合唱団と一緒に復興祈念コンサートをしたりしています。

織田 佐藤様ありがとうございます。長い歴史のなかで、地元の音楽家や団体と一緒に演奏をされていて、地域に根差した活動を大事にされていることが伝わりました。

次に長谷川様にお話を伺います。郡山交響楽団誕生の背景と、地域におけるこれまでの取り組みについて、どのようなことを考え行ってきたのかお聞かせください。

一般社団法人郡山交響楽団代表理事長谷川弘樹氏（以下、長谷川）
郡山交響楽団は二〇二二年に誕生しました。コロナ禍ということもあり、個人的な音楽活動も含め全国的にも音楽活動が停滞していた状況でした。福島県出身のプロの音楽家はたくさんいますが、地元に関わる機会が少ないという意見が以前から多くあったことも



あり、このタイミングだからこそやってみようということでも郡山交響楽団を立ち上げました。

毎年おおよそ年二回のペースで演奏会を開催しており、今年で三年目を迎えました。当初は福島県出身の音楽家が地元で活躍できるような母体となる団体を作ろうという想いが根底にありましたが、活動を続けていくなかでよりこの組織が強くなるためには、他の地域から音楽家を呼び、オーケストラ活動を通じて郡山で活躍できるというスタンスにした方が更なる発展に寄与すると考え、様々な紹介を通じて新たな人材を発掘して活動しています。また、地域の子どもたちのために教育活動にも力を入れています。私たちが力を入れているのは「ワークシヨップ」で、音楽に関心のない子どもたちにも音楽で楽しいなと思ってもらえる機会をつくらうということで、発足当時から力を入れています。この三年間で五〇校以上、およそ八〇〇〇人の子どもたちに、ワークシヨップや出張演奏で音楽を届けてきました。これからもこの活動を続けていきたいと考えています。

織田 長谷川様ありがとうございます。二〇二一年に誕生したということで当時はまだコロナ禍であり、全国的に音楽活動が停滞しているなかで郡山から誕生したことは非常に意味があることだと思います。また、他の地域からの若い人材の発掘に力を入れていることも、地域の音楽文化の活性化には必要なことだと思います。ワークシヨップに関しましては郡山青年会議所として、子どもたちへの青少年育成事業を行っていますので、興味深い内容としてお話を聞いていました。御二方ともオーケストラとして地域に根差したいという心強いお言葉をいただきました。次のテーマに移ります。「楽都郡山

佐藤

というブランドが市民や県外の方々へ浸透するためには、どのようなことが必要だと考えますか。佐藤様はどのようにお考えでしょうか。

まず楽都郡山のブランドは何を示しているのかが大事かと思えます。郡山は場所が有名ですので、知名度がある地域名を用いることにより地域性を効果的に表していると感じます。また、合唱コンクールで優秀な成績を持つ音楽が一番の音楽であるような、ネームバリューが先行しているように感じます。そういった意味で楽都郡山のイメージをどのようなブランドとして捉えるかが重要かと考えます。また、先程長谷川様が仰っていたワークシヨップなどの活動を、メディアを通じて広めていくことが必要だと考えます。



織田

佐藤様ありがとうございます。「楽都」というイメージはコンクールで優秀な成績を収めると反映されると私も思います。それはもちろん素晴らしいことですが、音楽とはそれだけではなく、色々な音楽があつてその裾野を広げていくことが大事だと思います。

長谷川様はどのようにお考えでしょうか。

長谷川 昨年ですが、GRE4N BOYZ (旧 GreenN) のファンの方がライブに来た際に、GRE4N BOYZ 誕生の地でありながら、街中で彼らを感じられる機会がない、楽都と謳っているのであれば、合唱や演奏で GRE4N BOYZ の曲を聴けるのであればぜひ行きたいという話を聞いて、私も同じことを感じました。そこで私は GRE4N BOYZ の曲を街中で演奏する機会をつくりました。

織田

長谷川様ありがとうございます。GRE4N BOYZ は郡山を代表するアーティストですので、テーマを絞って実践することも集客につながると感じます。長谷川様が仰っていた文化政策の観点は私も非常に共感する部分がありました。政策の計画があれば時間が掛かっても実行することができそうです。その意味で私たち青年会議所が政策を提言することも一つの在り方だと思っています。

次のテーマに移ります。都市における音楽の役割を全体的に探究していくことが包括的な利益をもたらす、市民が誇りをもてる文化的な都市形成へつながると考えますが、郡山市を代表する市民オーケストラとして、これから果たすべき役割はどのようなものなのか、お聞かせください。佐藤様はどのようにお考えでしょうか。

佐藤 持続化するために知名度を上げていく必要があると考えています。また、色々な場所で活動の裾野を広げていく必要があります。出前演奏や駅前

での街中講座に出る機会を増やしたり、郡山市とのタイアップイベントの機会を増やしたりするなど、やはり我々の裾野を広げるような企画が一番だと思います。そのような活動を継続的に行うことで郡山市民の中に浸透していくことが重要だと思います。

織田

佐藤様ありがとうございます。私も音楽に携わっている身として、地域の音楽文化の発展や向上に努めてまいります。また、郡山市民へさらなる浸透への一助となれるよう協力させていただけたらと思います。ですのでよろしく願っています。

長谷川様は郡山市初のプロフェッショナルのオーケストラとして、どのようにお考えでしょうか。

長谷川

団体を立ち上げた時の目標として、音楽家が活躍できる基盤を作りたいという想いが根底にありました。法人を立ち上げてから思ったことは、その運営にも目を向ける必要があるということです。音楽家だけではなく多種多様な人材が必要だと思っています。オーケストラ活動だけではなく、当団体の運営やそれを支えていくような政策も必要であり、環境を整えていく必要があります。この事業をどういう目的で行うのか、単発のイベントで終わらせないようにするにはどうすればよいかを考え続けることが重要です。そのことが演奏者にとって毎回頑張れる土壌づくりにつながると思っています。

織田

長谷川様ありがとうございます。法人という立場で運営面や費用の面で苦労されている印象を受けました。佐藤様も仰っていました。結果としてこの地域に浸透していき、結果と





してオーケストラを応援したいということが大事になってくると思います。そこで重要になってくるのが、演奏家たちの熱量だと私自身感じています。一聴衆としてオーケストラを聴く機会がありますが、熱量の高い楽団にはファンも大勢おり、地域とのつながりも強いと思います。演奏家一人ひとりの熱量が合わさることで地域全体を引っ張っていく力になると思っています。私たちがまちをより良くしたいという強い想いを持って活動していますので、ぜひその想いを実現していただけたらと思います。

次のテーマに移ります。「楽都郡山」の魅力が市民が積極的に対外に広めていくには、どのようなことが必要だと考えますか。

佐藤 市民の中で音楽都市としての郡山市のイメージは「合唱」が強いと思います。その中でオーケストラを広めていくにはどのようなようにしたらよいか、難しい課題だと思っています。

長谷川 「楽都郡山」としての分かりやすさやシンボルが大事になると思っています。郡山市で音楽都市を感じられる場所やポイントがどこかイメージできずすでしょうか。

佐藤 なかなか感じられる場所はないと思います。ポイントとしては合唱コンクールやふれあいコンサートなどでしょうか。

長谷川 そうですね。私はこれだけ合唱の文化に熱心な都市は他にはないと思っています。それは誇りですし、指導する先生たちの努力の賜物だと感じています。

ます。楽都だから立派なホールを持たないといけない、オーケストラがなくてはならないという意見が先行してしまうと躊躇してしまいますし、音楽活動の認知を深めていくことが大事だと思います。

佐藤 コロナ禍の前に、郡山駅のなかでコンサートをやっていました。そういう定期的な催しを市民の目に触れる場所で行うことも効果的だと思います。

長谷川 私個人として福島県民は凝り性の人が多いと感じています。例として日本酒づくりが挙げられます。膨大な時間と手間をかけ、かつ味を追求し日本一を目指している。この県民性を取り組む姿勢を音楽にも当てはめることができれば、「楽都郡山」の魅力が対外にもっと広がると思います。

織田 ありがとうございます。私の中で郡山市はお店などが何でも揃っており、当たり前のことが当たり前にできる環境にあるためか、ありがたみを感じる機会が埋もれてしまい、高いクオリティのものが実は身近に存在していることに気づきにくい印象があります。だからこそ、より分かりやすく伝えることが重要であると思います。

最後のテーマに移ります。地域で実現したい夢や、「楽都郡山」の未来についてお聞かせください。佐藤様よろしくお願ひします。

佐藤 地域に根差して演奏を続けられるオーケストラでありたいと考えています。行政と一緒に音楽都市としての方向性を議論する場があってもよいと考えます。人を巻き込み議論をすることで、多くのサポートを受けられる機会が創出されるかもしれませんし、私たちの活動が認知され、結果として「楽都郡山」が市民に浸透すると考えます。

織田 佐藤様ありがとうございます。長谷川様よろしくお願ひします。

長谷川 私は野外音楽ステージでお酒を飲みながら演奏を聴けるような、夏の音楽祭を実現したいと思っています。音楽コンサートをホールだけではなく野外で実施することで、市民やまちに還元できる機会を創出できると考えています。また、私が音楽活動をするうえで、演奏家として演奏する喜びと聴く楽しみを多くの人と分かち合いたいという理念があります。多くのオーケストラがいるなかで、たくさんの人に関わってほしいという想いがあり、そのために努力をして実現したいと思っています。

織田 長谷川様ありがとうございます。コロナ禍以降、野外でお酒を楽しみながら上質な音楽を聴ける機会が減少しましたし、私自身も郡山でそのような機会をまだ経験していませんので、是非実現していただきたいです。オーケストラの皆様で牽引し、企画し実現することが「楽都郡山」の認知度向上の一つの大きな力になると思います。

本日は様々なお話をお聞かせいただきありがとうございます。私たちができることは小さなことかもしれませんが、このようなきっかけを大事にして、郡山がより良く発展するためにお力添えをさせていただきます。本日はありがとうございます。



※紙面の都合上掲載はここまでとさせていただきます。対談の全内容はホームページにて掲載いたしますのでそちらをご覧ください。



ホームページ QR

プロフィール

佐藤 睦浩氏
福島県郡山市出身。九歳よりヴァイオリンを、十九歳よりヴィオラを始める。ヴァイオリンを渡辺栄治氏、ヴィオラを東義直氏・井野邊大輔氏に師事。

郡山市民オーケストラに一九七五年、高校入学と同時に渡辺英治氏のすすめで入団。以来大学時代を除き二〇二四年現在まで四三年間所属している。

現在、郡山市民オーケストラ団長、アマテウス室内管弦楽団及びアンダンティーノ弦楽四重奏団のヴィオラ奏者。郡山市内にて高等学校の物理教師を務めている。

長谷川 弘樹氏
福島県出身。九歳よりチェロを始める。桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業、桐朋学園大学研究科修了。卒業後にスイスのジュネーブにてIsout Chuatの下で研修を積む。二〇〇七年草津音楽祭室内楽コースに奨学生として参加する。

二〇一一年九月〜二〇一四年八月まで兵庫芸術文化センター管弦楽団のチェリストとして活躍する。

これまでに福島県立高校の音楽科講師として教壇に立つ。(平成二九年度末に終了)二〇二一年福島県郡山市に郡山交響楽団を創設。同楽団代表理事

二〇一一年九月〜二〇一四年八月まで兵庫芸術文化センター管弦楽団のチェリストとして活躍する。

これまでに福島県立高校の音楽科講師として教壇に立つ。(平成二九年度末に終了)二〇二一年福島県郡山市に郡山交響楽団を創設。同楽団代表理事

新年会



一月十六日
(火)、郡山ビュー
ホテルにて「公益
社団法人郡山青年
会議所二〇二四年
度新年会」が開催
されました。

織田理事長の新年の挨拶とともに、
本年度スローガン「Do one's best」
心を尽くして行動しよう！私たちの想
いが新世紀 郡山の扉を開く」に込
められた熱い想いを伝え、「心を尽く
して行動す
ること、情
熱をもつて
まちづくり
やひとづく
りに携わる
ことこそが
《明るい豊か
な社会》を
実現してい
く力になる」
と力強く決
意を表明さ
れました。

多数のご
来賓の皆様
にご出席い
ただき、御
三方よりご
祝辞をいた
だきました。
福島県知事
内堀雅雄様



代理 福島県中地方振興局 局長 小貫
薫様
郡山市市長 品川 萬里様
郡山商工会議所会頭 滝田 康雄様代
理 今泉 守顕様

鏡開きを行い、公益社団法人日本青
年会議所東北地区協議会会長 菅原啓
太君のご発声で乾杯となりました。

郡山芸妓連の皆様による祝舞や本年
度役員の紹介が行われ、新型コロナウイルス
感染症が「五類感染症」に分類
されてから初めての新年会ということ
もあり、ご来賓の方々や県内各LOM
のメンバー、郡山青年会議所OB会
員の皆様との交流が活発に行われ、終
始盛り上がりを見せておりました。

終盤には皆様と一緒に「若い我等」
を斉唱し、心をひとつにした後に、郡
山青年会議所OB会会長 池田 達哉様
による中締めとなりました。

本年度の新入会員も不慣れな場にも
関わらず、郡山青年会議所の法被を羽
織り、元気な声でお出迎えやお見送り
をしておりました。様々な方から激励
の言葉をいただき、運動・活動
に対する意欲が
より一層高まり
ました。

年始のご多用
中にも関わら
ず、多くのご来
賓、県内各LO
M、郡山青年
会議所OB会の皆
様にご出席賜り
誠にありがとうございました。
ございました。



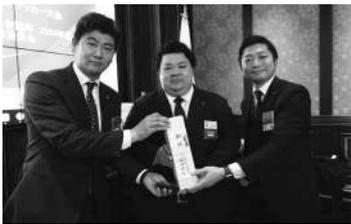
京都会議

一月十九日(金) から一月二十一日
(日) にかけて「公益社団法人日本青
年会議所二〇二四年度京都会議」が開
催されました。

■一日目 一月十九日(金)
初日は、(公社) 日本青年会議所に
出向しているメンバーへの激励と出向
先委員会へ御礼に伺いました。

その後、(公社) 日本青年会議所東
北地区協議会の会員会議所会議にオブ
ザーブ参加いたしました。続いて行わ
れた東北青年フォーラム主催主管締結
式では、「公益社団法人日本青年会議所
東北地区協議会二〇二四年度東北青年
フォーラムin青森」の開催が締結され
ました。主管LOMである(公社) 青
森青年会議所がPRを行い、今年の開
催に対する熱い意気込みを感じるこ
とができました。

その夜に開催された東北地区ナ
イトでは、(公社) 日本青年会議所
二〇二四年度役員紹介や各ブロック協
議会並びに会員会議所理事長紹介があ
り、福島県からの出向者が登壇される
と、他の県内LOMメンバーから大き



な歓声が上がりに、絆の深さが感じられ
ました。

■二日目 一月二十日(土)
二日目は、経済フォーラム(メイン
フォーラム)と社会フォーラムに参加
いたしました。

経済フォーラムでは「Discover
New JAPAN ～日本再発見の旅～」の
テーマのもと、第一部ではゲービッド・
アトキンソン氏から、インバウンドが
日本の経済成長の原動力となるとの講
演があり、第二部のパネルディスカッ
ションでは株式会社美ら地球(ちゅら
ぼし)代表取締役 山田 拓氏を交え、
将来を見据えた観光産業の可能性につ
いて意見を交わしておりました。

社会フォーラムでは「輝く地方が日
本を興す」地方分散型社会のすゝめ
」のテーマのもと、第一部では京都
大学人と社会の未来研究院 教授 広井
良典氏から、人口減少・成熟社会のデ
ザインについて講演いただき、第二部
のパネルディスカッションでは(公社)
日本青年会議所副会頭 谷口 雄紀君と
持続可能な地方分散型社会を目指して
いくことについて意見を交わしてお
りました。

両フォーラムでも人口減少時代だか
らこそ地域が輝
くことが必要と
の見解でした。
皆がアイディア
を出し合い、地
方から日本を輝
かせようという
郡山JCとして
も大変心に響く
フォーラムでし
た。



その日の夜、姉妹JCである（二社）奈良青年会議所との合同LOMナイトが開催されました。

今年には姉妹JC締結から五十年の節目の年でもあります。奈良青年会議所の今年の理事長スローガンは「心を観じて、心から尽くす」です。織田理事長も「心を尽くす」という同じ意味の言葉をスローガンに使われていて、不思議なご縁を感じました。

胎中理事長の挨拶の中で、ぜひメンバー同士で「彼氏・彼女の関係をつくってください」とのお言葉がありました。その言葉通り親睦を深め合うことができました。



■三日目 一月二十一日（日）

最終日は、新年式典に出席いたしました。



た。

（公社）日本青年会議所第七十三代会頭小西毅君の挨拶では、冒頭能登半島地震への対応について述べられました。その後インバウンドの促進、デジタル田園都市構想の推進、全国一斉事業の実施など、現在の日本の課題に対する解決策について熱弁を振るわれました。

「さあ今こそ！ あなたのまち、日本の社会課題の解決に向けて、圧倒的な当事者意識を持ち、躍進してまいりますよう！」

「Stand up, Leaders! 未来を変えるために今立ち上がろう！」

最後は青年会議所の全メンバーに向けて、力強いメッセージを発信されて式典が閉会いたしました。

郡山JCとしても社会の課題解決に向けて邁進していきます。

一月例会並びに定時総会

一月三十日（火）、郡山ビューホテルアネックスにて「公益社団法人郡山青年会議所二〇二四年度一月例会並びに定時総会」が開催されました。

■一月例会

例会では第六十四代理事長織田平君が「Do one's best! 心を尽くして行動しよう！ 私たちの想いが新世紀郡山の扉を開く」のスローガンのもと、二〇二四年度の運動・活動にかける想いを述べられ、一月に開催された事業の報告と対応にあたった委員会に対する御礼、新入会員に対する人



会歓迎のお言葉がありました。「青年会議所は不連続の連続である」このフレーズとともに、理想に向けて一緒に運動を展開していきたいと、メンバーに呼びかけられました。

会務報告、出向者報告では各委員長、各出向者より本年度の決意表明と一月の運動・活動の報告がありました。

その後、新入会員の入会許可証授与式が行われ、一人ひとり自己紹介を行いました。

■一月定時総会

OB会会長 池田達哉様よりご挨拶をいただき、定時総会開催のご祝辞と本年度の運動・活動に対する激励のお言葉をいただきました。

議長に片田光君、副議長に伊藤裕之君が選出され、スムーズな議事進行もあり無事に全議案に対し、全員賛成にて可決承認いただきました。

会の最後には理事長 織田 銀平君より二〇二三年度理事長 芝田 銀平君に感謝状が贈られ、郡山青年会議所発展の為に尽くされた功績をメンバー全員で称えました。

芝田直前理事長一年間本当にお疲れさまでした。



新春のつどい



二月四日（日）、郡山ビューホテルアネックスにて「(公社)日本青年会議所東北地区福島ブロック協議

会二〇二四年度新春のつどい」が開催されました。

■アカデミー開校式

塾生一人ひとりが登壇し、郡山青年会議所から出向している黒田容委員は「精神(こころ)、橋本源矢委員は「一期一会」をスローガンとして掲げ、熱い意気込みと決意表明を述べました。二〇二四年度アカデミー委員会のスローガン「Shining One」のように、アカデミー生の中でも輝く人となり、MVPを目指して頑張ってください。

■新春のつどい

郡山青年会議所から出向されている柳沼勝恵ブロック会長より、本年度の福島ブロック協議会のスローガン「Challenge & Support」子供たちに誇れる故郷の創造」が発表され、災害支援「Be the Leader」国際



的ネットワークという運動・活動の核となるキーワードとともに力強く所信を述べられました。

その後、織田理事長が開催地理事長として挨拶され、郡山の歴史・文化の説明、福島ブロック協議会に対する思い、開催に対する歓迎の意を表されました。

役員紹介では出向している郡山青年会議所のメンバーも紹介され、柳沼ブロック会長と照れた表情で握手をする姿が印象的でした。

LOMスローガン発表では織田理事長と江崎専務が登壇され、「Do ones



Best」心尽くして行動しよう！私たちの想いが新世紀 郡山の扉を開く」のスローガンが発表されました。

■ブロック大会主催者管締結式

福島ブロック協議会の最大の発信の場である「第五十四回福島ブロック大会 in たむら」のPRが行われました。

本年度のスローガンである「Excitrip」ふるさとが織りなす魅力の旅」とともに会場全体でシュプレヒコールが行われました。

■組織アップデート座談会

(公社)日本青年会議所二〇二〇年度会頭 石田 全史 先輩と(公社)日本青年会議所顧問 菅野 譲 君から、これからのLOMの在り方について貴重なご意見をいただきました。



二月例会

二月二十六日(月)、郡山市郡山公会堂にて「公益社団法人郡山青年会議所二〇二四年度二月例会」が開催されました。

本例会から新入会員が司会とセレモニーを担当しました。総務委員会スタッフによる熱心な指導とリハーサルを行った甲斐もあり、慣れないながらもしつかりと役割を務めていました。

理事長挨拶では「何のために例会をやるのか」という問いかけから始まり、例会を通じたメンバーの意識統一の重要性について話をされました。

その後、各委員会の会務報告、各出向者報告が行われ、二月の運動・活動の振り返りと三月の事業に向けた参加意識の向上を図り、出席メンバーへの情報共有がされました。

本年度初めての公会堂での開催ということもあり、登壇したメンバーの表情に緊張が見られた例会となりました。



新入会員オリエンテーション並びに現役会員向けセミナー

三月二日(土)、三日(日)に「新入会員オリエンテーション並びに現役会員向けセミナー」が開催されました。

■一日目 三月二日(土)

基礎研修
常任理事から郡山青年会議所の基礎となる各テーマについてご説明いただきました。

飯島副理事長：J.Cの基本理念・J.C運動・三信条

佐久間副理事長：(公社)郡山青年会議所の歴史と伝統並びにその活動

江崎 専務：用語・定款・諸規定
金山副理事長：(公社)日本青年会議所並びに出向

各室及び委員会事業説明

室長と委員長から各室及び委員会の事業説明が行われ、新入会員に組織構成について理解いただきました。

二〇二三年度褒賞受賞者体験スピーチ

二〇二三年度褒

賞受賞者である

圓谷 紀幸 君と

菅 洋滋朗 君に

よる体験スピー

チが行われまし

た。自身の経験

をもとに今後新

入会員に対して

期待することな

ど、エピソード

を交え



ながら話をされました。

理事長講話/バズセッション

新入会員は別会場にて、理事長所信や織田理事長の経験談などをお聞きする理事長講話に臨み、別会場にて現役会員は「大切な友人に青年会議所への入会を勧める」というテーマのもと、バズセッションを行いました。グループに分かれ、友人に勧める際の強く推せる点と躊躇してしまう点を挙げ、郡山青年会議所自体がどう変われば入会に有利に働くかを話し合いました。

現役会員向けセミナー

講師として二〇二二年に(公社)日本青年会議所 理念共感拡大会議で議長を務められた一社

京丹後青年会議

所OB 榎田 啓

先輩をお呼び

し、「地域に希

望をもたらす青

年の"エソラゴ

ト(理念共感拡

大の解説)」と

題し、ご講演い

ただきました。

三分間スピーチ

「デジタル田園都市国家構想」や「ムーブメント目標」、「蛙化現象」など様々なお題に対して新入会員がスピーチを行いました。その場でお題を与えられるため、苦戦しながらも自分なりに考えを巡らせ答えていました。

青春の居酒屋

池田 達哉 OB会会長をはじめ、今



年は(一社)奈良青年会議所との姉妹J.C.締結五十周年を迎えることから、周年の年度に理事長を務められた堀川紀房先輩、幕田 宙晃先輩、二瓶健一先輩をお招きし、当時の思い出や苦労話をお聞きし、半世紀にわたり紡がれてきた歴史を学びながら、懇親を深めることができました。

■二日目 三月三日(日)

新入会員特別研修

新入会員がJ.C.宣言文と綱領の唱和を行い、登壇から唱和、降壇までの一連の流れを審査員にチェックいただき、無事に全員合格することができました。

新入会員決意表明

今回の新入会員オリエンテーションから学んだ内容を盛り込み、新入会員一人ひとりが苦労して書き上げた決意表明文を声高らかに読み上げていました。

修了証書授与

二日間に渡り開催された新入会員オリエンテーションを修了した証として、修了証書が織田理事長より手渡されました。

新入会員はもちろんのこと、現役会員にとっても大変実りある二日間となりました。



三月例会

三月二十一日(木)、郡山市郡山公会堂にて「公益社団法人郡山青年会議所二〇二四年度三月例会」が開催されました。

新入会員によるセレモニーも問題なく行われ、雰囲気慣れてきた様子が伺えました。

理事長挨拶では「タスク管理」についてのお話がありました。会社の繁忙期と重なった場合に、仕事とJ.C.運動・活動を両立させるためには、業務の優先順位をつけてスケジュールを守ることも大切であると語られました。

その後、会務報告と各出向者報告が行われました。今年度の取り組みとして、会務報告の中で四半期ごとに会員拡大の進捗状況を各委員会から報告することになり、今回が初の報告となりました。各委員会の進捗はそれぞれ異なるものの、発信することで会員拡大に向けての意識づけにつながったと思います。



第六十三回「久米賞・百合子賞」 第一回実行委員会

四月十八日(木)、郡山市役所本庁舎五階の教育委員会室にて、第六十三回「久米賞・百合子賞」第一回実行委員会が開催されました。

織田理事長の挨拶では「久米賞・百合子賞」は子どもたちの持つ豊かな感性、そして文学の目を伸ばし、今後の郡山市の文化芸術に寄与するために、郡山青年会議所誕生と共に歩んできた歴史と伝統のある事業であるというお話がありました。

実行委員会では織田実行委員長の進行のもと、今年度の久米賞・百合子賞の概要や今後のスケジュール、予算等を打ち合わせし、無事に承認いただくことができました。

昨今は新型コロナウイルス感染症の影響もあり実行委員会役員中心に行っていました。今年度は現役会員の皆様にもオプザブとして参加していただきました。



四月例会並びに チェリーパーティー

四月二十二日(月)、郡山ビューホテルアネックスにて「公益社団法人郡山青年会議所二〇二四年度四月例会並びにチェリーパーティー」が開催されました。

■四月例会

理事長挨拶では「時間は有限である」ということを本質的に理解している人は、未来を見据え志を持ちながら行動できるというお話があり、メンバーに対し一瞬一瞬に目を向けるだけではなく、先を見据えながらJIC運動・活動に邁進してほしいと述べられました。

その後の報告ではまちづくり委員会や青少年育成委員会による事業PR、すりこぎ野球クラブの案内などが行われ、事業が活発化する様子が見られました。

■チェリーパーティー

例会後に郡山青年会議所OB会の先輩方との交流事業として「チェリーパーティー」が開催されました。各テーブルにて先輩方との交流を深め、多くの気づきや学びを得る機会となり大変有意義な時間となりました。



第五十九回 郡山市こどもまつり

五月五日(日)、AGCエレクトロニクス郡山カルチャーパークにて「第五十九回郡山市こどもまつり」が開催されました。

郡山市こどもまつりは昭和四十一年(社)郡山青年会議所が立ち上げた事業で、未来を切り拓く子どもたちが元氣いっばいの笑顔となる機会を創出するために今年もブース出展を行いました。

出展した「明日から始めようわりばし鉄砲コーナー」、「手作りわりばし鉄砲でSDGs射的コーナー」、「郡山青年会議所PRコーナー」には多くの子どもたちが集まり、夢中になってわりばし鉄砲を作成し、元氣な声を響かせながら射的を行っていました。現役メンバーとの交流も盛んに行われ、笑顔があふれる賑わいを見せていました。



Vol.613号

●発行所事務局 公益社団法人郡山青年会議所 福島県郡山市中町5-1-17
●発行責任者/理事長 織田 陵平
●編集責任者/広報委員会委員長 佐藤 広幸

中町スペース3F 電話024-932-2289
※無断転載禁止

アンケートのお願い



本誌や当団体へのご意見や感想をお寄せください。
郡山青年会議所では本誌や当団体に対するご意見やご感想を募集しています。記載のQRコードから回答いただくか、FAXやハガキに左記項目を明記してお送りください。

- 性別 ●年齢 ●関係者か否か
- 興味・共感を持った記事または事業
- 本誌や当団体へのご意見・ご感想
- 当団体にやってほしい事業

〈宛先〉
公益社団法人郡山青年会議所
広報委員会宛
〒963-8004 福島県郡山市
中町5-17 中町スペース3F
FAX: 024-932-2285/7

※ご記入いただいた個人情報は誌面を充実させることや事業へ役立てること以外の目的で使いません。



アンケート QRコード



SNSによる情報発信も
行っています。

- Instagram QRコード
- フェイスブック QRコード
- エックス QRコード